

●今月の断酒表彰

A Dさん 吹田支部 断酒4年



2022(令和4)年7月1日発行 No.233

編集・発行 事務局・広報部

<https://kz925.com/suita/>

断酒表彰おめでとうございます。ますますのご活躍を期待いたします。

↑ Yさんが6月1日、南千里支部に入会されました。よろしくお祈りします。

断酒に思う 128

ブラックアウトの記憶

吹田支部 A D

昨日、ブラックアウトの記事があった。アルコールによるブラックアウトとは、飲酒時の記憶を失ってしまうことだ。「コロナ明け飲み会で朝起きたら知らない人の家で寝てた」「朝起きたら、洞窟の中にいた。絶対、会社に間に合わない」等々。

自分は、どうだったか？もちろんブラックアウトの経験はある。何回か？覚えていない。いやカウントしていない。飲み会で、帰りに電車で眠ってしまうことは数多くある。乗り過ぎて、「ここは、どこ」となったケースは、多い。それが、最終電車で帰れない所だとあきらめて、健康ランドやサウナを探して泊まる。それでも、そんな場所がない時は、駅のホームで一夜を明かす。

27年前(1995年)の1月に阪神淡路大震災があった。私も、客先の設備の修復にたずさわった。しかし、そんな時でも酒によりブラックアウトをしている。その当時、私は滋賀県栗東市の会社で働いていた。そんな時期になぜ飲み会があったのかは、記憶にない。20時頃に終わった飲み会のはずが、なぜか最終電車で尼崎駅(震災時終点)についた。車掌に「終点ですよ」と起こされた。周囲に明かりがなく、恐ろしくなった。電車を降り、車掌が目を離している内に再び電車に乗った。新大阪の操車場につき「あなた起こして降ろしたはずだけど」と再び車掌におこされた。その時「助かった」とは思ったが、あまり深くは考えていない。



むしろ、他人に話し笑い話にしている。

酔っぱらう事で、「あほやな」と笑い話になる事は若いころから多かった。笑い話になるからこそ、もう止めとこうという気になりにくい。世間一般

に、酒の席という言葉があるように酒の失敗は、笑い話になるのだ。その当時は、機会飲酒ではあったが、それでも一度飲み始めると意識がなくなる飲み方をしていたのだと、今では思う。

酒の恐ろしさは、自分で気にしないと理解できない。飲んで頭の中が気持ちよくなることを経験すると決して飲まない選択はない。どんどん耐性ができ、量が増える。だれもが「あいつは酒が好きなやつだ」と言うだけで心配しない。そんな人は、行き帰りの電車でも見る。専門医にも見られず亡くなっていく。

そう考えると、妻が「酒を止めないと離婚する」と言い半ば強制的に専門医につながった自分は、幸運なのだと思う。断酒会に入会して、同じような体験をしている仲間には、わからない世界がある。年齢こそ違うが、なぜか話が合う。だからこそ、14年も続いたのだと思う。断酒継続こそ途切れてはいるが例会出席は、継続されていると思う。ぼちぼち、がんばる気持ちで心おだやかにする様に心がけたい。



断酒会規範

二 断酒会には酒をやめたい人なら誰でも入会できる

断酒会入会の条件は、酒をやめたいという願望を持っているだけで充分である。

どんな政治思想や信仰を持っていても、断酒会入会の障害にはならない。しかし、断酒会は酒害者が酒をやめる会であるので、断酒会の中で選挙活動や、布教活動はできない。

社会的地位や名声のある人、経済的に恵まれた人と、どん底の生活をしている人との間には何の差別もない。

断酒会のモットーは自由平等である。どんな高い地位にいる人でも、ひとりの酒害者であることには変わりはない。そうした認識がなく優越感を持っている人は、すぐ改めてほしい。優越感は、自分の断酒の足を引っぱるだけである。

どん底の貧しい生活をしていても恥じることはない。酒害者が酒を断つ努力の過程では、その真摯な姿勢が評価されるだけである。自分を卑下することは断酒の壁になるので捨ててほしい。

心身の障害があっても、酒害者でありさえすれば歓迎される。二重、三重の苦痛を越えて努力する姿には、われわれを感動させるものがあるからである。

過去にどんな誤ちを犯していても、入会の条件に触れるのではなく、また問われもしない。逆に、泥沼から這い上がろうとする勇氣にわれわれは敬意を表す。酒害者なら誰でも入会できるのが断酒会である。

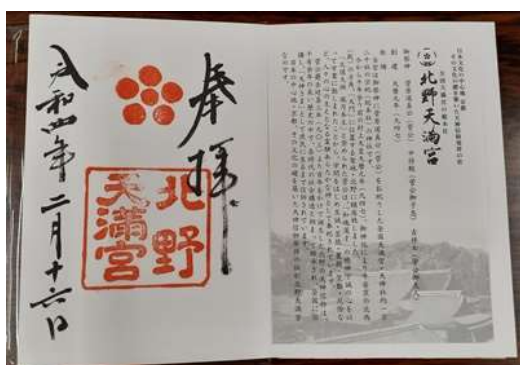
また断酒会は、こうした無条件に近い条件で入会を認めるので、あらゆる環境、あらゆるタイプの人間が集まった。そして、まじめに生きようとする人間と人間の間には、何の差も元々ないことがわかった。自由平等は原則に止どまらず、現実であることを実証した。

みんなの広場

京都神社仏閣巡り その一

今年は母親の喪中も明けて、例年は住吉神社に初詣に出かけるのですが、今回は大阪を離れてみようと思い、京都に出かけることにしました。

まず行き慣れた北山から上賀茂神社へ出かけました。一月七日、神社境内では七草粥が振舞われていました。その時は御朱印のことはまるで頭になく、初詣だけを済ませて帰りました。

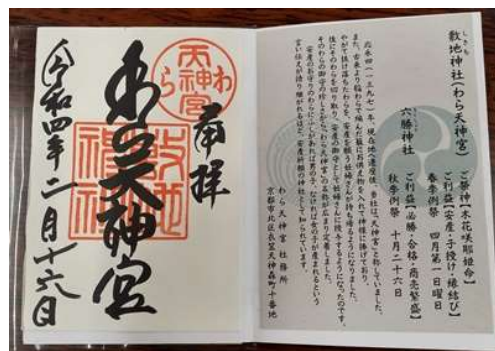


京都の神社仏閣巡りも楽しいなと感じ、翌月北野天満宮、金閣寺を巡ることにしました。北野天満宮では梅園が解放されており、梅の花見をかねて参拝してきました。コロナ感染対策も十分に行われており、参拝客はそんなに多くはなかったのですが、梅の花見客もチラホラ見える程度でした。

娘がちょうど厄年にあたるので厄除けも頂戴し、国宝の鬼切丸の貯蔵庫、その他の収蔵物も見学しました。煌びやかな金閣寺を見て感動もしました。



京都の神社仏閣巡りで新鮮な空気を吸っていると、清々しい気持ちになります。神社仏閣巡りを通じて自然に接することを継続していこうと思いました。次回は八坂神社を起点に、清水寺などを巡ろうと思いました。コロナ感染時ということもあり、御朱印は印刷されたものをいただきましたが、今後は御朱印帳をうめていくことも楽しみになりそうです。(その二へ続く)



吹田支部 I S

お知らせ

- 枚方断酒会一日研修会（無料）
7月18日（月・祝）13：00～16：00
ラポール枚方 ※7月10日締め切り
- 第49回近畿ブロック（滋賀）大会（2,000円）
8月7日（日）10：00～15：30
守山市民ホール ※7月24日締め切り
- 北摂断酒連合会一日研修会（無料）
8月14日（日）12：30～16：00
摂津市コミュニティプラザ ※8月1日締め切り